

原油市場展望

2021年9月

 株式会社 **日本総合研究所**

調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2021年9月1日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎 (Tel:080-4176-4439 Mail:matsuda.kentaro@jri.co.jp)

- ◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます(右側QRコードからもアクセスできます)。新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。
<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

<メルマガ> <Twitter>



原油価格見通し：60ドル台を中心に推移

◆現状：一時弱含みも60ドル台後半へ

8月のWTI原油先物価格は、中旬にかけて、①新型コロナのデルタ株の感染拡大による米中の景気減速懸念、②IEAによる需要見通しの下方修正、③米シェールオイル企業のリグ稼働数の増加、などを受けて一時61ドル台へ急落。

下旬以降は、米国での新型コロナワクチンの正式承認を受けたリスク選好の動きや、米原油在庫の取り崩しが市場予想を上回ったことなどから、60ドル台後半へ上昇。

◆投機筋の買い越し幅は大幅縮小

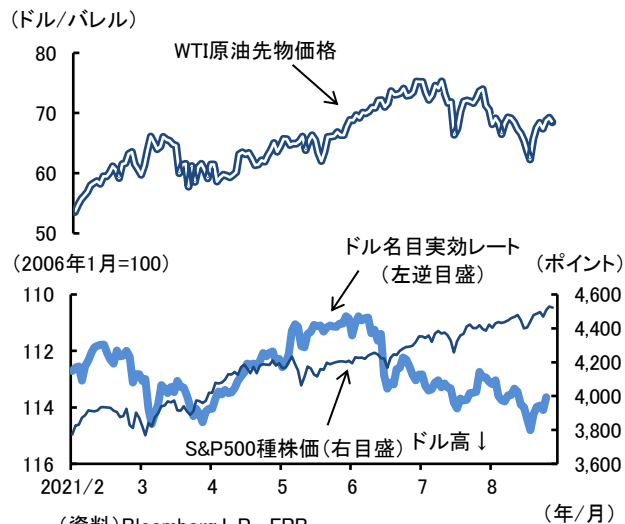
投機筋の原油先物買い越し幅は、新型コロナデルタ株の感染拡大に伴い、エネルギー需要の減退が意識されたことから、8月を通して縮小傾向が持続。総建玉残高も、2020年11月以来の水準まで減少。

◆見通し：60ドル台を中心に推移

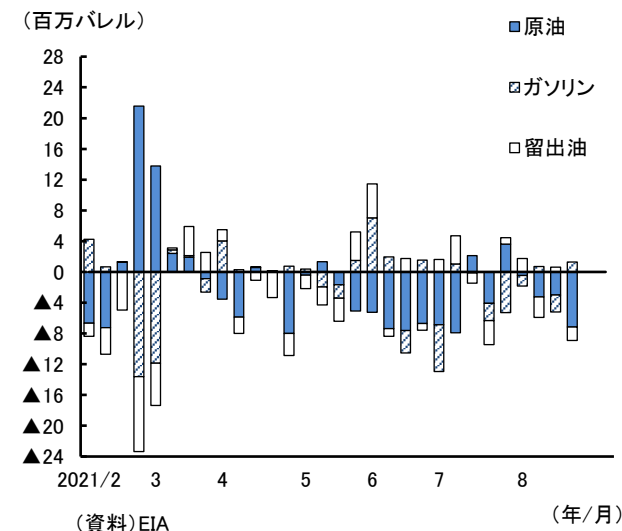
先行きを展望すると、OPECプラスは協調減産の枠組みを維持しつつ、あくまで漸進的な減産縮小にとどめることから、原油価格は下支えされる見込み。

一方で、新型コロナ変異株の感染拡大懸念が根強いなか、各国の需要回復ペースの鈍化や米国シェールオイルの増産などが価格抑制要因に。結果として、現行水準を中心とした横ばい圏での推移が続く見通し。

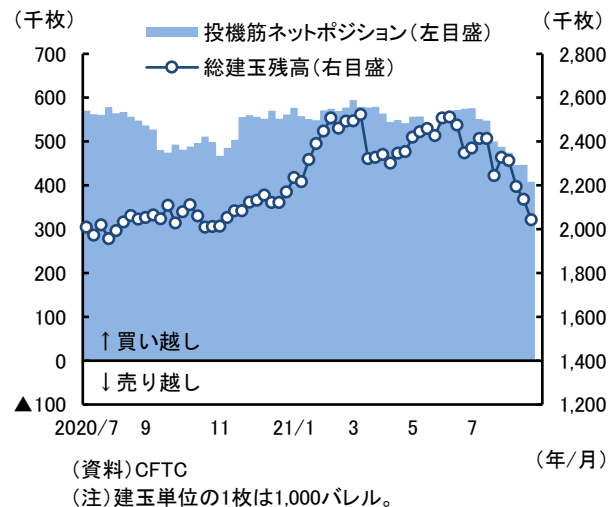
原油価格と株価・為替レート



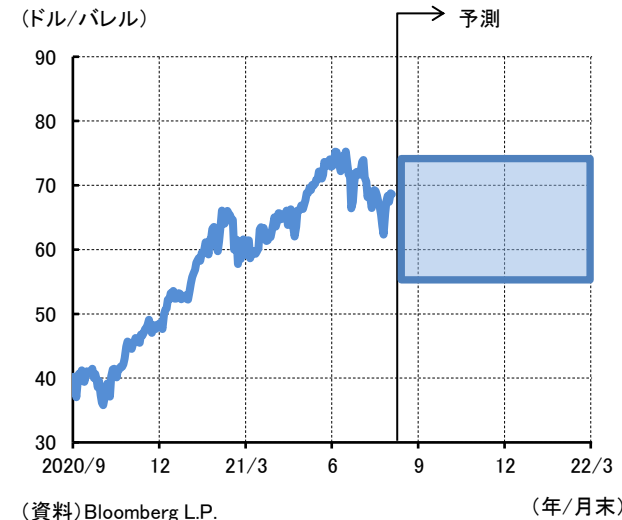
米国の原油・石油製品在庫(前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



トピック：米原油在庫の減少は一服へ

◆原油在庫の縮小が進展

今春以降、米国の原油在庫は大幅に減少。新型コロナウイルス感染拡大前の2015～19年平均の水準を下回る状況に。

背景には、ワクチン普及などに伴う米国の原油需要の急速な回復が指摘可能。年初以降に回復傾向を維持してきたガソリン出荷は、5月からのドライブシーズン到来を受けて水準を切り上げ、足許ではコロナ禍前のピーク近くまで増加。こうしたなか、製油所の稼働率は90%台超と、ガソリン精製などを中心に概ねフル稼働の状態が持続。

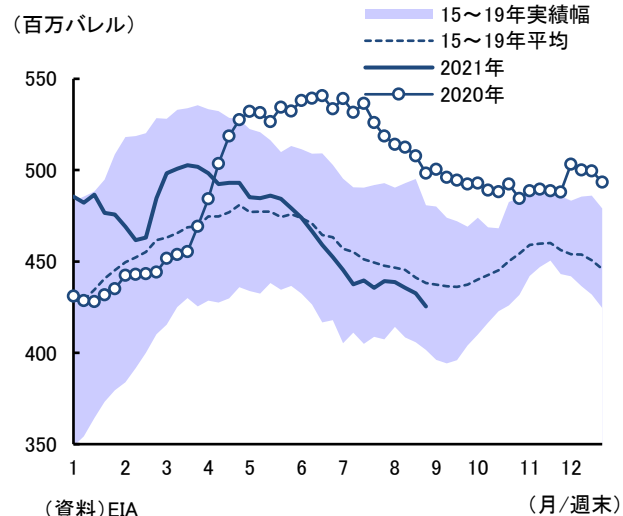
◆先行き在庫減少は一服へ

当面を展望すると、以下2点から米国の原油在庫の減少は一服する見込み。

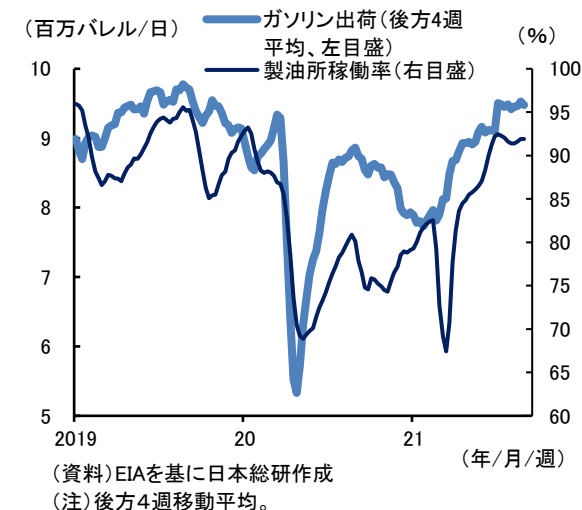
第1に、需要拡大の頭打ち。9月上旬でドライブシーズンが終了するほか、7月以降は米国内でデルタ株の感染が拡大しており、外出の急回復は見込み薄。EIAは年内から来年半ばにかけて、石油製品需要を小幅下方修正。

第2に、米国のシェールオイル生産の回復。7月以降、原油生産は持ち直しに転じており、足許ではリグ稼働数の増加も持続。リグ稼働数の増加は、生産コストの低いパーミアンなど一部地域が中心であり、広範な地域で生産が増加するには時間を要するとみられるものの、供給は着実に増加する見通し。

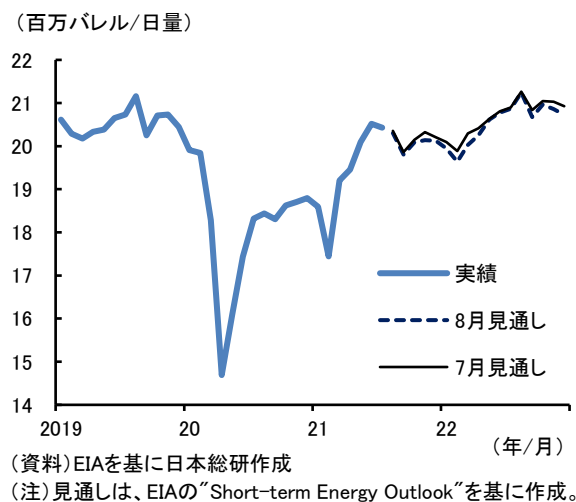
米国の原油在庫



米国のガソリン出荷と製油所稼働率



米国の石油製品需要



米国の原油生産量と石油掘削設備(リグ)稼働数

